

基本計画書

基本計画										
事項	記入欄								備考	
計画の区分	研究科の専攻の設置									
フリガナ設置者	ガクシュウイン カクシュウイン 学校法人 学習院									
フリガナ大学の名称	ガクシュウインダクインガクイン 学習院大学大学院 (Gakushuin University Graduate School)									
大学本部の位置	東京都豊島区目白一丁目5番1号									
大学の目的	<p>本大学は、総記の精神（本院はすべて社会的地位や身分にかかわらず広く男女学生を教育することを本旨として、教育基本法及び学校教育法に基づいて次の諸学校の学則の定めるところによつてこれらの男女に幼児の保育から大学教育に至る一貫した教養を与え、高潔な人格、確乎とした識見並びに近代人にふさわしい健全で豊かな思想感情を培い、これによつて人類と祖国とに奉仕する人材を育成することを目的とする。）に基づき精深な学術の理論と応用とを研究教授し、有用な人材を育成し、もつて文化の創造発展と人類の福祉に貢献することを目的とする。</p> <p>本大学院は学部の教育の基礎の上に、高度にして専門的な学術の理論及び応用を教授研究し、文化の進展と人類の福祉に寄与することを目的とする。</p>									
新設学部等の目的	<p>教育学専攻は、質の高い教育専門家としての教師を養成することを目的とする。特に、博士前期課程においては、高度の専門性を備えた初等・中等教員の養成、および現職教師の教育を担うことを目的とし、博士後期課程においては、大学において教師教育を担う研究者、および教師の現職研修を担う高度の専門家としての指導的教師を養成することを目的とする。</p>									
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	【基礎となる学部】文学部教育学科	
	人文科学研究科 (Graduate School of Humanities) 教育学専攻博士前期課程 (Master's Course in Education) 教育学専攻博士後期課程 (Doctor's Course in Education)	2	20	—	40	修士 (教育学)	平成27年4月第1年次	東京都豊島区目白1丁目5番1号		
	計		25		55					
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	<p>学習院大学大学院 法務研究科 法務専攻専門職学位課程 [入学定員減] (△20) (平成27年4月) 学習院大学大学院 人文科学研究科 臨床心理学専攻博士後期課程 (3) (平成26年4月届出済)</p>									
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数				
		講義	演習	実験・実習	計					
	人文科学研究科 教育学専攻 博士前期課程	13科目	28科目	0科目	41科目	30単位				
人文科学研究科 教育学専攻 博士後期課程	0科目	16科目	0科目	16科目	20単位					
教員	学部等の名称		専任教員等						兼任教員等	
			教授	准教授	講師	助教	計	助手		
	新設	大学院 人文科学研究科 教育学専攻 博士前期課程	7 (7)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	6 (6)	
		大学院 人文科学研究科 教育学専攻 博士後期課程	6 (6)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	6 (6)	0 (0)	1 (1)	
		計	7 (7)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	7 (7)	
	既	大学院 政治学研究科 政治学専攻 博士前期課程	18 (18)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	18 (18)	0 (0)	4 (4)	
		大学院 経済学研究科 経済学専攻 博士前期課程	17 (17)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	18 (18)	0 (0)	1 (1)	
		大学院 経営学研究科 経営学専攻 博士前期課程	16 (18)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	16 (18)	0 (0)	6 (6)	
		大学院 人文科学研究科 哲学専攻 博士前期課程	3 (3)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	5 (5)	0 (0)	5 (5)	
		大学院 人文科学研究科 美術史学専攻 博士前期課程	5 (5)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	5 (5)	0 (0)	5 (5)	

組 織 設 の 概 要 分	大学院 人文科学研究科 史学専攻 博士前期課程	7 (7)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	7 (7)
	大学院 人文科学研究科 日本語日本文学 専攻 博士前期課程	11 (11)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	7 (7)
	大学院 人文科学研究科 英語英米文学専 攻	7 (7)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	2 (2)
	大学院 人文科学研究科 ドイツ語ドイツ 文学専攻 博士前期課程	3 (3)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	5 (5)	0 (0)	4 (4)
	大学院 人文科学研究科 フランス文学専 攻 博士前期課程	0 (0)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	7 (7)
	大学院 人文科学研究科 心理学専攻 博 士前期課程	5 (5)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	5 (5)	0 (0)	5 (5)
	大学院 人文科学研究科 臨床心理学専攻 博士前期課程	4 (5)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	4 (5)	0 (0)	7 (7)
	大学院 人文科学研究科 アーカイブズ学 専攻 博士前期課程	4 (5)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	5 (6)	0 (0)	13 (13)
	大学院 人文科学研究科 身体表象文化学 専攻 博士前期課程	5 (5)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	6 (6)	0 (0)	7 (7)
	大学院 自然科学研究科 物理学専攻 博 士前期課程	5 (6)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	6 (7)	0 (0)	6 (6)
	大学院 自然科学研究科 化学専攻 博士 前期課程	7 (8)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	8 (9)	0 (0)	3 (3)
	大学院 自然科学研究科 数学専攻 博士 前期課程	8 (9)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	8 (9)	0 (0)	3 (3)
	大学院 自然科学研究科 生命科学専攻 博士前期課程	8 (8)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	2 (2)
	大学院 法学研究科 法律学専攻 博士後 期課程	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	()
	大学院 政治学研究科 政治学専攻 博士 後期課程	18 (18)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	()	0 (0)	4 (4)
	大学院 経済学研究科 経済学専攻 博士 後期課程	17 (17)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	18 (18)	0 (0)	1 (1)
	大学院 経営学研究科 経営学専攻 博士 後期課程	16 (18)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	16 (18)	0 (0)	6 (6)
	大学院 人文科学研究科 哲学専攻 博士 後期課程	3 (3)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	5 (5)	0 (0)	5 (5)
	大学院 人文科学研究科 美術史学専攻 博士後期課程	5 (5)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	5 (5)	0 (0)	5 (5)
	大学院 人文科学研究科 史学専攻 博士 後期課程	7 (7)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	7 (7)
	大学院 人文科学研究科 日本語日本文学 専攻 博士後期課程	11 (11)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	7 (7)
	大学院 人文科学研究科 英語英米文学専 攻 博士後期課程	7 (7)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	2 (2)
	大学院 人文科学研究科 ドイツ語ドイツ文 学専攻 博士前期課程	3 (3)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	5 (5)	0 (0)	4 (4)
	大学院 人文科学研究科 フランス文学専 攻 博士後期課程	()	2 (2)	0 (0)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	7 (7)
	大学院 人文科学研究科 心理学専攻 博 士後期課程	5 (5)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	5 (5)	0 (0)	5 (5)
	大学院 人文科学研究科 アーカイブズ学 専攻 博士後期課程	4 (5)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	5 (6)	0 (0)	13 (13)
	大学院 人文科学研究科 身体表象文化学 専攻 博士後期課程	5 (5)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	6 (6)	0 (0)	7 (7)
	大学院 自然科学研究科 物理学専攻 博 士後期課程	5 (6)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	6 (7)	0 (0)	6 (6)
	大学院 自然科学研究科 化学専攻 博士 後期課程	7 (8)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	8 (9)	0 (0)	3 (3)
	大学院 自然科学研究科 数学専攻 博士 後期課程	8 (9)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	8 (9)	0 (0)	3 (3)
	大学院 自然科学研究科 生命科学専攻 博士後期課程	8 (8)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	2 (2)
	計	134 (141)	12 (12)	0 (0)	2 (2)	148 (155)	0 (0)	94 (94)
合 計	141 (148)	13 (13)	0 (0)	2 (2)	156 (163)	0 (0)	101 (101)	
教員以外の職員の概要	職 種	専 任		兼 任		計		
	事 務 職 員	69 (69)		74 (74)		143 (143)		
	技 術 職 員	9 (9)		8 (8)		17 (17)		
	図 書 館 専 門 職 員	20 (20)		1 (1)		21 (21)		
	そ の 他 の 職 員	0 (0)		0 (0)		0 (0)		
	計	98 (98)		83 (83)		181 (181)		

法学研究科法律
学専攻博士後
期課程以外の博士
後期課程の教員
は博士前期課程
と同じため統計
は実数を計上

校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	学習院高等科と共用 (収容定員：600人) (面積基準：8,400㎡) 学習院中等科と共用 (収容定員：600人) (面積基準：7,200㎡) 学習院幼稚園と共用 (収容定員：104人) (面積基準：480㎡)					
	校 舎 敷 地	35,012㎡	3,322㎡	10,553㎡	48,887㎡						
	運 動 場 用 地	21,716㎡	17,588㎡	10,263㎡	49,567㎡						
	小 計	56,728㎡	20,910㎡	20,816㎡	98,454㎡						
	そ の 他	98,034㎡	0㎡	8,412㎡	106,446㎡						
	合 計	154,762㎡	20,910㎡	29,228㎡	204,900㎡						
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計						
		94,066㎡ (94,066㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	94,066㎡ (94,066㎡)						
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体					
	92室	58室	104室	11室 (補助職員一人)	6室 (補助職員一人)						
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称 人文科学研究科教育学専攻 博士前期課程・博士後期課程		室 数 8 室		博士後期課程の教員は博士前期課程と同じため、室数は博士前期課程の実数を計上					
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	大学全体での共用 大学図書 468,881冊 教職課程図書 13,350冊 機械・器具 8,372点 標本 29点			
	人文科学研究科 教育学専攻 博士前期課程 博士後期課程	4,750 [300] (3,520 [151])	21 [4] (21 [4])	3 [3] (3 [3])	28 (28)	410 (410)	0 (0)				
	計	4,750 [300] (3,520 [151])	21 [4] (21 [4])	3 [3] (3 [3])	28 (28)	410 (410)	0 (0)				
図 書 館		面 積		閲覧座席数	収 納 可 能 冊 数			大学全体			
		12,106㎡		1,646	1,888,675						
体 育 館		面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要			大学全体				
		2,061㎡		卓球場、柔剣道場、トレーニングセンター 1,909㎡							
経 費 積 立 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経 費 の 見 積 り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	経費は、申請研究科全体。図書費には、電子ジャーナル・データベースの整備費(運用コスト含む)を含む。	
		教員1人当り研究費等		400千円	400千円	400千円					
		共同研究費等		2,790千円	3,060千円	3,140千円					
		図書購入費	7,710千円	8,520千円	9,340千円	9,580千円					
		設備購入費	8,570千円	9,470千円	10,380千円	10,650千円					
		学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学等経常費補助金、資産運用収入、雑収入等									
大 学 の 名 称		学 習 院 大 学 大 学 院									
学 部 等 の 名 称		修業年限	入学定員	編入学定員	取容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地		
法務研究科法務専攻		年	人	人	人		倍				
専門職学位課程		3	50	-	150	法務博士(専門職)	0.71	H16年度			
法学研究科法律学専攻											
博士後期課程		3	3	-	9	博士(法学)	0.16	S61年度			
政治学研究科政治学専攻											
博士前期課程		2	15	-	30	修士(政治学)	0.58	S54年度			
博士後期課程		3	5	-	15	博士(政治学)	0.15	S56年度			
経済学研究科経済学専攻											
博士前期課程		2	10	-	20	修士(経済学)	0.37	S54年度			
博士後期課程		3	3	-	9	博士(経済学)	0.08	H2年度			
経営学研究科経営学専攻											
博士前期課程		2	10	-	20	修士(経営学)	0.52	S53年度			
博士後期課程		3	3	-	9	博士(経営学)	0.91	S61年度			
人文科学研究科哲学専攻											
博士前期課程		2	10	-	20	修士(哲学)	0.57	S28年度			
博士後期課程		3	3	-	9	博士(哲学)	0.16	S40年度			
美術史学専攻											
博士前期課程		2	10	-	20	修士(美術史学)	0.90	H20年度			
博士後期課程		3	3	-	9	博士(美術史学)	1.49	H20年度			

既設大学等の状況	史学専攻												
	博士前期課程	2	15	-	30	修士（史学）	0.84	S40年度					
	博士後期課程	3	3	-	9	博士（史学）	0.99	S40年度					
	日本語日本文学専攻												
	博士前期課程	2	20	-	40	修士（日本語日本文学）	0.77	S28年度					
	博士後期課程	3	3	-	9	博士（日本語日本文学）	0.91	S40年度					
	英語英米文学専攻												
	博士前期課程	2	10	-	20	修士（英語英米文学）	0.40	S32年度					
	博士後期課程	3	3	-	9	博士（英語英米文学）	0.57	S40年度					
	ドイツ語ドイツ文学専攻												
	博士前期課程	2	5	-	10	修士（ドイツ語ドイツ文学）	0.40	S32年度					
	博士後期課程	3	2	-	6	博士（ドイツ語ドイツ文学）	0.37	S40年度					
	フランス文学専攻												
	博士前期課程	2	5	-	10	修士（フランス文学）	0.35	S32年度					
	博士後期課程	3	2	-	6	博士（フランス文学）	0.00	S40年度					
	心理学専攻												
	博士前期課程	2	6	-	12	修士（心理学）	0.28	S55年度					
	博士後期課程	3	2	-	6	博士（心理学）	2.50	S57年度					
	臨床心理学専攻												
	博士前期課程	2	12	-	24	修士（臨床心理学）	0.97	H21年度					
	アーカイブズ学専攻												
	博士前期課程	2	15	-	30	修士（アーカイブズ学）	0.24	H20年度					
	博士後期課程	3	3	-	9	博士（アーカイブズ学）	0.99	H20年度					
	身体表象文化学専攻												
	博士前期課程	2	10	-	20	修士（表象文化学）	0.55	H20年度					
	博士後期課程	3	3	-	9	博士（表象文化学）	0.49	H20年度					
	自然科学研究科物理学専攻												
	博士前期課程	2	15	-	30	修士（理学）	0.86	S28年度					
	博士後期課程	3	3	-	9	博士（理学）	0.16	S36年度					
	化学専攻												
	博士前期課程	2	15	-	30	修士（理学）	1.23	S28年度					
	博士後期課程	3	3	-	9	博士（理学）	0.41	S36年度					
数学専攻													
博士前期課程	2	6	-	12	修士（理学）	0.70	S42年度						
博士後期課程	3	3	-	9	博士（理学）	0.24	S44年度						
生命科学専攻													
博士前期課程	2	15	-	30	修士（理学）	0.34	H20年度						
博士後期課程	3	3	-	9	博士（理学）	0.49	H20年度						
大学等の名称	大学院大学												
学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地					
	年	人	年次人	人		倍							
法学部						1.04							
法学科	4	250	-	1,000	学士（法学）	1.03	S39年度						
政治学科	4	230	-	920	学士（政治学）	1.05	S24年度						
経済学部						1.08							
経済学科	4	250	-	1,000	学士（経済学）	1.07	S27年度						
経営学科	4	250	-	1,000	学士（経営学）	1.10	S49年度						
文学部						1.10							
哲学科	4	95	-	380	学士（哲学）	1.16	S24年度						
史学科	4	85	-	340	学士（史学）	1.08	S36年度						

東京都豊島区目白一丁目5番1号

南宮都豊島区目白

の状況	日本語日本文学科	4	110	-	440	学士(日本語日本文学)	1.08	S32年度	不承御堂四丁目 一丁目5番1号
	英語英米文化学科	4	115	-	460	学士(英語英米文化学)	1.08	S32年度	
	ドイツ語圏文化学科	4	50	-	200	学士(ドイツ語圏文化学)	1.10	S32年度	
	フランス語圏文化学科	4	80	-	320	学士(フランス語圏文化学)	1.12	S32年度	
	心理学科	4	90	-	360	学士(心理学)	1.11	S50年度	
	教育学科	4	50	-	100	学士(教育学)	1.02	H25年度	
	理学部						1.12		
	物理学科	4	50	-	200	学士(理学)	1.12	S24年度	
	化学科	4	50	-	200	学士(理学)	1.09	S24年度	
数学科	4	60	-	240	学士(理学)	1.05	S38年度		
生命科学科	4	50	-	200	学士(理学)	1.25	H21年度		
既設大学等の状況	大学の名称	学習院女子大学 大学院							
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	取容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
	国際文化交流研究科 国際文化交流専攻 修士課程	2年	10人	-	20人	修士(国際文化交流)	0.77倍	H16年度	東京都新宿区戸山三丁目20番1号
既設大学等の状況	大学の名称	学習院女子大学							
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	取容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
	国際文化交流学部						1.14倍		
	日本文化学科	4	140	5(3年次)	570	学士(日本文化)	1.14	H10年度	東京都新宿区戸山三丁目20番1号
	国際コミュニケーション学科	4	170	5(3年次)	690	学士(国際コミュニケーション)	1.15	H10年度	
英語コミュニケーション学科	4	45	-	180	学士(英語コミュニケーション)		H18年度		
附属施設の概要	<p>名称：人文科学研究所 目的：人文科学に関する共同研究を行うことにより学術の進歩発展に寄与する 所在地：東京都豊島区目白1-5-1 設置年月：平成13年4月 規模等：使用面積98㎡(事務室・研究室)</p> <p>名称：外国語教育研究センター 目的：外国語に関する教育・研究活動を総合的に行う 所在地：東京都豊島区目白1-5-1 設置年月：平成9年4月 規模等：使用面積400㎡(事務室・研究室・自習室)</p> <p>名称：計算機センター 目的：電子計算機及び電子通信機器による各種情報処理に関する教育及び研究活動を総合的に行う 所在地：東京都豊島区目白1-5-1 設置年月：平成10年4月 規模等：使用面積536㎡(事務室・研究室・実習室)</p> <p>名称：スポーツ・健康科学センター 目的：スポーツ科学及び健康科学の教育並びに体育・スポーツ活動及び健康教育に関する専門的業務を総合的に行う 所在地：東京都豊島区目白1-5-1 設置年月：平成13年4月 規模等：使用面積262㎡(事務室・研究室)</p>								

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学又は高等専門学校の場合、取容定員に係る学別の変更の届出を行う場合は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行う場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「-」又は「該当なし」と記入すること。

教育課程等の概要															
(人文科学研究科 教育学専攻 博士前期課程)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
必修科目	学校教育事例研究Ⅰ	1・2通	2				○		7	1				4単位必修 4単位必修	
	修士論文指導	1・2通	2				○		7	1					
	小計(2科目)	—	4	0	0		—		7	1	0	0	0		
教育基礎学コース	教育史概説	1・2後		2			○		1					隔年	
	教育史事例研究Ⅰ	1・2前		2			○		1						
	教育史特殊研究Ⅰ	1・2前		2			○		1					隔年	
	教師教育概説	1・2前		2			○		1					隔年	
	教師教育事例研究Ⅰ	1・2後		2			○		1						
	教師教育特殊研究Ⅰ	1・2後		2			○		1					隔年	
	教育行政概説	1・2前		2			○			1				隔年	
	教育行政事例研究	1・2後		2			○			1					
	教育行政特殊研究	1・2後		2			○			1				隔年	
	教育実践学コース	授業研究概説	1・2後		2			○		1					隔年
		授業研究事例研究Ⅰ	1・2前		2			○		1					
		授業研究特殊研究Ⅰ	1・2前		2			○		1					隔年
		音楽教育概説	1・2後		2			○		1					隔年
		音楽教育事例研究	1・2前		2			○		1					
		音楽教育特殊研究	1・2前		2			○		1					隔年
		国語教育概説	1・2前		2			○		1					隔年
国語教育事例研究		1・2後		2			○		1						
国語教育特殊研究		1・2後		2			○		1					隔年	
算数教育概説		1・2前		2			○							兼1・隔年	
算数教育事例研究		1・2後		2			○							兼1・隔年	
数学教育特殊研究		1・2後		2			○							兼1・隔年	
美術教育概説		1・2前		2			○							兼1・集中・隔年	
美術教育事例研究		1・2前		2			○							兼1・集中・隔年	
美術教育特殊研究		1・2前		2			○							兼1・集中・隔年	
英語教育概説		1・2後		2			○							兼1・隔年	
英語教育事例研究	1・2前		2			○							兼1・隔年		
英語教育特殊研究	1・2前		2			○							兼1・隔年		
教育創造コース	特別活動概説	1・2前		2			○		1					隔年	
	特別活動事例研究Ⅰ	1・2後		2			○		1						
	特別活動特殊研究Ⅰ	1・2後		2			○		1					隔年	
	社会科教育概説	1・2前		2			○							兼1・集中・隔年	
	社会科教育事例研究Ⅰ	1・2前		2			○							兼1・集中・隔年	
	社会科教育特殊研究Ⅰ	1・2前		2			○							兼1・集中・隔年	
	体育教育概説	1・2前		2			○							兼1・集中・隔年	
	体育教育事例研究	1・2前		2			○							兼1・集中・隔年	
	体育教育特殊研究	1・2前		2			○							兼1・集中・隔年	
	理科と環境概説	1・2後		2			○							兼1・隔年	
理科と環境事例研究	1・2前		2			○							兼1・隔年		
理科と環境特殊研究	1・2前		2			○							兼1・隔年		
小計(39科目)	—	0	78	0		—		6	1	0	0	0	兼6		
合計(41科目)	—	4	78	0		—		7	1	0	0	0	兼6		
学位又は称号	修士(教育学)			学位又は学科の分野			教育学・保育学関係								
修了要件及び履修方法															
授業期間等															
1. 博士前期課程修了のためには、所定の授業科目30単位以上を修得するほかに、修士論文を提出して合格しなければならない。 2. 学生は「教育基礎学コース」「教育実践学コース」「教育創造コース」のいずれかのコースに所属し、所属するコースの開設科目16単位以上(「学校教育事例研究Ⅰ」4単位、「修士論文指導」4単位を含む)を含めて、専攻の開設科目20単位以上を修得しなければならない。 3. 修了に必要な総計30単位以上のうち「事例研究」を10単位以上修得しなければならない。 4. 「学校教育事例研究Ⅰ」は、単年度2単位、合計4単位を修得しなければならない。 5. 「修士論文指導」は、単年度2単位、合計4単位を修得しなければならない。								1学年の学期区分		2期					
								1学期の授業期間		15週					
								1時限の授業時間		90分					
備考															
学則においては、将来における柔軟な運用を考慮し、上記選択必修科目の単位数を「2(半期・授業回数15回)または4(通年・授業回数30回)」としている。															
(注)															
1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科(学位の種類及び分野の変更等に関する基準(平成十五年文部科学省告示第三十九号)別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。)についても作成すること。															
2 私立の大学若しくは高等専門学校等の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。															
3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。															
4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。															

教育課程等の概要														
(人文科学研究科 教育学専攻 博士後期課程)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
必修科目	学校教育事例研究Ⅱ	1・2・3通	2				○		6					4単位必修
	博士論文指導	1・2・3通	2				○		6					4単位必修
	小計（2科目）	—	4	0	0		—		6	0	0	0	0	
選択必修科目	教育史事例研究Ⅱ	1・2・3前		2			○		1					隔年
	教育史特殊研究Ⅱ	1・2・3前		2			○		1					隔年
	教師教育事例研究Ⅱ	1・2・3後		2			○		1					隔年
	教師教育特殊研究Ⅱ	1・2・3後		2			○		1					隔年
	授業研究事例研究Ⅱ	1・2・3前		2			○		1					隔年
	授業研究特殊研究Ⅱ	1・2・3前		2			○		1					隔年
	芸術教育事例研究	1・2・3前		2			○		1					隔年
	芸術教育特殊研究	1・2・3前		2			○		1					隔年
	言語教育事例研究	1・2・3後		2			○		1					隔年
	言語教育特殊研究	1・2・3後		2			○		1					隔年
	特別活動事例研究Ⅱ	1・2・3後		2			○		1					隔年
	特別活動特殊研究Ⅱ	1・2・3後		2			○		1					隔年
	社会科教育事例研究Ⅱ	1・2・3前		2			○							兼1・集中・隔年
	社会科教育特殊研究Ⅱ	1・2・3前		2			○							兼1・集中・隔年
小計（14科目）	—	0	28	0		—		6	0	0	0	0	0	兼1
合計（16科目）			—	4	28	0	—		6	0	0	0	0	兼1
学位又は称号	博士（教育学）		学位又は学科の分野				教育学・保育学関係							
修了要件及び履修方法								授業期間等						
1. 博士後期課程を修了するためには、所定の授業科目20単位以上を修得するほかに、博士論文を提出して合格しなければならない。 2. 学生は「教育基礎学コース」「教育実践学コース」「教育創造コース」のいずれかのコースに所属し、所属するコースの開設科目を14単位以上（「学校教育事例研究Ⅱ」4単位、「博士論文指導」4単位を含む）修得しなければならない。 3. 「学校教育事例研究Ⅱ」は、単年度2単位、合計4単位を修得しなければならない。 4. 「博士論文指導」は、単年度2単位、合計4単位を修得しなければならない。ただし、それに2単位を加えて合計6単位修得することが望ましい。								1学年の学期区分		2期				
								1学期の授業期間		15週				
								1時限の授業時間		90分				
備考 学則においては、将来における柔軟な運用を考慮し、上記選択必修科目の単位数を「2（半期・授業回数15回）または4（通年・授業回数30回）」としている。														

（注）

- 1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。

授 業 科 目 の 概 要			
(人文科学研究科 教育学専攻博士前期課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
必修科目	学校教育事例研究Ⅰ	学校を基盤とするフィールドワーク、観察研究、アクション・リサーチ、実習経験によって、本専攻と学校現場の教育実践との往還的関係を創出し、授業実践、教室経営、生徒指導、特別活動、カリキュラム開発、校内研修、学校経営に関する実践的研究を行う。数時間の講義形式の授業のあと、担当教員全員が毎回チームを組んで小グループ指導を行う。	
	修士論文指導	<p>（概要）学術論文の執筆の基本的技法を学習し、教育調査の方法、統計分析、史料批判、観察と記録と解釈の方法など、教育研究に必要な研究方法の導入を行い、修士論文のテーマ設定や資料調査、先行研究の検討などを行い、修士論文をはじめ、学術論文の執筆の導入を行う。演習形式と個人指導を併用し隔週で年間2単位を与える。</p> <p>（①佐藤学） カリキュラム研究、授業研究を研究課題とし、授業研究分野について論文指導を行う。</p> <p>（②齋藤利彦） 日本教育史・中等教育史を主な研究対象としており、学校現場における教育活動の実態史に関する研究指導を行う。</p> <p>（③山崎準二） 教師としての発達と力量形成に関する研究を行っており、教師教育分野における研究指導を行う。</p> <p>（④嶋田由美） 唱歌ならびに音楽教育の実態の解明を中心として研究を推進しており、芸術教育分野の論文指導を行う。</p> <p>（⑤岩崎淳） 国語教育を専門とし、言語教育分野における研究指導を行う。</p> <p>（⑥長沼豊） 特別活動、ボランティア学習等を中心に研究を進めており、教科外教育に関する研究指導を行う。</p> <p>（⑦佐藤陽治） スポーツ科学及び野外教育、ボランティア教育の研究実績を有し、体育および野外教育分野の指導を行う。</p> <p>（⑧宮盛邦友） 学習権の思想研究を基盤とする学校運営の研究と教育行政研究を推進しており、教育行政分野における研究指導を行う。</p>	
選択必修科目	教育史概説	日本の戦前から戦後に至る教育史に関わる事象をとりあげ、歴史の流れに即して理解を深めていく。必要に応じて、近代以前の教育形態および欧米の教育史も考察の対象とする。そのために、教育史における学校制度を形作り学校現場の実践のあり方を規定した重要な法令・教育思潮をとりあげ、それらを読み解き、また先行研究の分析や批判も行っていく。授業の後半では、特に学校現場と教育史との関連に関する参加者の問題意識を踏まえ、個別課題を設定して検討と指導を進めていく。	
	教育基礎学コース	教育史事例研究Ⅰ	教員としての高度な専門教養として、小学校教育制度の成立と展開・教育政策・教育思想・教育内容と方法・教育実践の展開等を、歴史的視野から思考し、かつそれを教育（特に小学校教育）の現代的課題と結びつけて理解できるようになることが目標である。そのために、制度史や政策史に関する重要な史料は当然のこととして、フィールド・ワークの意味を持つ実際の小学校現場の史料、すなわち教務日誌、生徒懲戒簿、教案、教材、教具等の学校保存の内部史料や、生徒懲戒始末書、退学願届、校友会雑誌等の生徒・教員の意識・行動を反映する史料等も実地に調査・収集し分析を行っていく。演習の後半では、参加者の問題意識を踏まえ、個別課題を設定して検討と指導を進めていく。

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	教育史特殊研究 I	対象となる史料として、特に中等諸学校の学校沿革史をとりあげ、実際の学校現場の教育理念、カリキュラム、教育実践、生徒の諸活動等を検討し、かつそれを教育の現代的課題と結びつけて理解できるようになることが目標である。また、そうした学校現場の日常の中で、学ぶ者としての生徒たちの教育への意識がどのように変化してきたのかも考察の対象としていく。可能な限りフィールド・ワークの意味を持つ実際の教育史史料の調査や収集も行い、修士論文の作成にもつなげていく。演習の後半では、参加者の問題意識を踏まえ、個別課題を設定して検討と指導を進めていく。	隔年
選択必修科目	教師教育概説	学校教師と教職をめぐる現状について認識を深め、今後の課題・在り方について措定・構想していく。授業は、下掲のテキストをもとに、学校教師と教職をめぐる様々な基礎データを考察し、基本的認識を共有するとともに、集団的議論によって今後の研究的課題を措定し、在り方を構想していく。	
	教師教育事例研究 I	ライフコース・アプローチとは何か、についての基礎的な認識を共有するとともに、それを踏まえて学校種・年齢・性別等の異なる、主に初等教員の事例を用いながら、教師のライフコースを事例的に分析・考察する。そのことを通して、教師の発達と力量形成の特徴について分析・考察する。	隔年
	教師教育特殊研究 I	教師教育をめぐる今日的な課題の一つである、教育専門職としての教師が、その実践経験の中から自己形成してきた力量の特質について考察し共有しつつ、それを主に中等教員の事例を用いながら、ライフコース・アプローチに基づいて解明していくことを目指す。	隔年
	教育行政概説	本授業では、教育と教育行政の基礎理念としての、子どもの権利と教育の公共性に関する〈子どもの権利〉と〈教育基本法〉について、教育思想史および教育学の観点から、分析をする。それを通して、開かれた教職の専門性の教育学的・教育行政学的高度化を思考する。特に、このテーマを深める上で重要な、〈人間と国家〉に関する教育学・教育行政学の文献を、堀尾輝久の教育学・教育法学を中心にして、それに対する批判もふまえて、欧米での教育学・教育科学の研究動向も視野に入れながら、講義および演習を行うことにしたい。	
	教育行政事例研究	本授業では、現代学校改革である「開かれた学校づくり」について、調査研究を通して、分析をする。特に、三者協議会・学校フォーラムを中心にして、授業改革や教育委員会改革を視野に入れながら、現場を歩くことにしたい。教育行政・学校経営の実地研究を行うことによって、実際の教育行政・学校経営を知り、開かれた教職の専門性の教育学的・教育行政学的高度化を思考することが最大の目的である。調査にあたっては、各自がそれぞれに部分を担いながら、かつ、全体を共同することを、常に意識して、積極的に参加してほしい。	隔年
	教育行政特殊研究	本授業では、現代学校改革である「学校法・学校政策」について、外書講読を通して、分析をする。特に、学校における教育目的・教育目標に見られる教育方法での人間像と教育政策・行政での人間像との関係を中心にして、諸外国の研究動向を視野に入れながら、本を読むことにしたい。教育行政・教育政策の発展研究を行うことによって、実際の教育行政・教育政策を知り、開かれた教職の専門性の教育学的・教育行政学的高度化を思考することが最大の目的である。授業では、日本語および英語の資料・史料を使用するが、教員の方でフランス語およびドイツ語にもあたることにする。資料・史料に書かれている内容を理解することが目的であり、外国語をたくさん読むことが目的ではない。言葉を理解するためには、翻訳ではなく、直接、原典に触れることが必要であり、そのことによって、その言葉のもつ微妙なニュアンスをとらえる面白さと重要さを体験してもらえれば、と思っている。	隔年
教育実	授業研究概説	小学校の授業実践の開発と研究の基礎概念と基礎的技法について講述し、学びのデザインとリフレクションの方法を探究する。授業研究の内外の専門的知見を学び、授業実践の諸事例の検討を行った後、カリキュラム開発を目的とする授業研究、および、教師の専門的技量の開発を目的とする授業研究、そして、学びの質を高める授業研究の在り方を探る。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
実践 コース 教育 実践 学 コース 選択 必修 科目	授業研究事例研究 I	小学校の授業実践の映像記録を教材として活用し、授業実践の基礎的技法と創造的技法を学習する。特に、学びを中心とする授業実践を創造するための技法、協同的で探究的な学びを実現する授業実践の技法について、最新の教育学と学習科学の研究成果とを結び付けて学び、学びのデザインとリフレクションによる授業実践のイノベーションの道筋を解明する。なお、事例研究である本科目は、学校訪問と教室の観察とアクションリサーチを実習する内容を含んでいる。	隔年
	授業研究特殊研究 I	中学校・高校の授業研究の最新の研究動向を内外の専門書と学術論文の講読によって学習した後、授業実践の観察と記録と分析・解釈を実践的に探究し、さらに事例研究によってカリキュラム研究の事例研究と実習を通じて、教職専門開発の事例研究とイノベーションの方法を探究する。学校現場のフィールドワークとして教室観察、授業実践の実習を含む。	隔年
	音楽教育概説	現在の学校における音楽教育の諸課題には明治期からの音楽教育の指導法や教材に起因するものが多いが、本講義ではまず日本独特の音楽教育の成立と発展の過程への認識を深める。その上で音楽教育の諸領域における現状と今日的課題を把握し、音楽教育に関する課題意識を深める。そして受講者同士での討議を踏まえながら各自の音楽教育観の確立を目指す。授業は講義と、グループによる発表や討議を交えて行う。	
	音楽教育事例研究	本講義では就学前の子どもの表現活動と小学校における音楽教育の優れた実践事例を、文献資料とビデオによる授業記録を通して考察し、理論と実践の往還の上に音楽教育を分析的に検討できる力を身につける。そして確かな音楽教育観に基づいて子どもの表現力を育成するための音楽科授業を構想できる力を身につける。なお本科目は学校での音楽授業の観察と授業者との討議も含む。授業は講義と、グループによる発表や討議を交えて行う。	隔年
	音楽教育特殊研究	中学校および高等学校における音楽教育の諸領域の優れた実践事例の検討を通して、生涯にわたる音楽活動の基盤となる力を学校教育の中で育成するための高度な授業構想力を習得する。またサウンド・エデュケーションや創造的な音楽活動の概念への理解を深め、これらの考え方を採り入れながら音楽教育を構築できる力を身につける。なお本科目は学校での音楽授業の観察と授業者との討議も含む。授業は講義と、グループによる発表や討議を交えて行う。	隔年
	国語教育概説	教育制度を理解し、学校教育における国語科教育の位置を確認する。学習指導要領の内容と構成を理解したうえで、各領域と事項について、効果的な指導の在り方を考究し、実践的学習指導における力量形成と研究基盤の構築を目指す。学習者論、教材論、授業論等を学びながら、受講者それぞれの問題意識を高め、修士論文作成の基礎を支援する。小学校の国語科を中心とし、適宜中学校・高等学校についても説明する。	
	国語教育事例研究	教科書は授業をするうえで基本的な図書である。教科書の構造や編集のねらいを理解したうえで学習の目標や学習活動を考察する。国語科教育の研究は実践を基盤としている。授業をどのように創造していくかという課題に向き合うため、教材研究及び授業実践研究を行い、国語科担当者としての力量形成を目指す。先行実践に学びながら、受講者による授業提案や模擬授業を実施する。	隔年
	国語教育特殊研究	「全国学力・学習状況調査」等の資料によりながら、現状を把握したうえで、指導過程の在り方について考察する。中学校や高等学校の代表的な教材を例にして、教材の背景や教材化の歴史、教材化の視点、教材の扱い方等を具体的に研究していく。第3回から第14回までは、受講者による発表、意見交換、担当教員による解説等を通して、国語科教育に関する認識を深めていく。	隔年
	算数教育概説	主に次の5つの活動を行う。①算数の実践事例の検討。②授業中の教師と児童のやり取りの検討（授業のシナリオ作り）。③授業場面のケーススタディ。④教材の開発と検討。⑤算数・数学教育に関する史料の読解。授業形態としては、討論、演習などの形態をとる。	隔年

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教育実践学コース	算数教育事例研究	主に次の3つの活動を行う。①各自が単元を設定し、検定教科書や教育関連論文を調査する。②調査に基づいて、各自が単元案を作るとともに、単元を構成する主要な授業（1時限分）の案を作る。③各自が構想した授業案に基づいて模擬授業を行い、開発した単元の意義と可能性について議論する。授業形態としては、講義、討論、演習などの形態をとる。	隔年
	数学教育特殊研究	主に次の5つの活動を行う。①算数・数学の実践事例の数学的検討。②授業中の教師と生徒のやり取りと学習課題の検討（授業のシナリオ作り）。③授業場面のケーススタディ。④教材の開発と検討。⑤算数・数学のカリキュラム開発の事例研究。授業形態としては、討論、演習、事例研究などの形態をとる。	隔年
	美術教育概説	美術教育のカリキュラムには目標、内容、方法、評価の要素がある。この授業では、特に内容と方法について学習指導要領の内容と教科書の内容構成を知り、図画工作科授業実践例の分析と討議を通して理解する。また、日米の美術教科書を比較して、その背景にある授業観や指導観の違いを知る。授業内容のまとまりごとに討議をして小レポートを提出する。定期試験の内容は授業中の討議を踏まえて自分の意見を述べるものになる。	隔年
	美術教育事例研究	多様な美術教育の実践事例を分析し、目標、評価、指導方法、用具・材料、領域などについて小学校図画工作科の実践事例の類型を導きだし、地域や学校の実情に応じて柔軟に対応できる授業の在り方を探る。必要に応じてグループ討議を行い、討議を踏まえて各自の意見を発表し、小レポートにまとめる。各自が指定されたネット上のデータをあらかじめダウンロードすることも求められる。	隔年
	美術教育特殊研究	美術教育のカリキュラムには目標、内容、方法、評価の要素がある。この授業では、特に目標と評価について事例を分析し討議し、模擬授業で確認する。授業内容のまとまりごとにグループでの討議を踏まえて小レポートを提出する。受講生は、パソコン（タブレット等）に資料をダウンロードしておくことが求められる。	隔年
	英語教育概説	毎回英語教育の一つの側面に焦点を当て、それについての資料解題と発表を元に、特に日本の英語教育現場における教育実践の問題点と改善策を議論する。	隔年
	英語教育事例研究	主として英語教育の授業の様子を収めたビデオやDVDを用い、まず教育実践を観察し、次にそこで用いられている教授法や生徒の学習状況等を分析、さらにその実践例の長所と欠点、修正案などを議論する。	隔年
選択必修科目	英語教育特殊研究	中学校、高校の英語教育に関する基礎的な導入を行ったのち、主に日本の教育現場におけるさまざまな英語教育の実践事例を研究し、それに関する議論や発表を通じて日本の英語教育に関する理解を深める。	隔年
	特別活動概説	本授業科目は学校教育における特別活動に関する研究内容および研究方法を総合的に分析する。教育課程における特別活動の位置と役割、特別活動の教育的意義、学級・HR活動、児童会・生徒会活動、クラブ活動、学校行事の実践のあり方、地域の教育力を生かした実践の工夫などについて基礎的な文献・論文を用いて分析する。また、特別活動の種々の研究手法に関する理解を深める。	
	特別活動事例研究 I	本授業科目は小学校における特別活動に関する応用的な研究を行う。受講生ごとにテーマを決め、学校現場の実践をふまえながら特別活動のあり方を論じる（演習形式及び学校現場における参与観察）。特に自主性・主体性を育む教育実践のあり方に焦点をあて、例としてボランティア活動の展開を中心に分析する。具体的には特別活動におけるボランティア活動の実際、ボランティア活動の教育的意義、地域の教育力を生かしたボランティア活動のあり方、ボランティアコーディネーションなどについて事例分析を通して考察する。また特別活動における集団の機能を高める指導の工夫、福祉教育のあり方などについても取り上げ理解を深める。参与観察の機会も設け教育現場との往還的な研究を行う。	隔年
教育創造コース			

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
選択必修科目	教育創造コース	特別活動特殊研究 I	本授業科目は中学校・高等学校における特別活動に関する実践的研究を演習形式で行う。特別活動の特質をふまえた上で、自治的能力の育成と社会参加・参画の視点をふまえた市民性育成の方策に焦点をあてて分析する。自治的能力を高める生徒会活動のあり方や社会参加・参画を促す指導のあり方を中心に分析を行う。また特別活動と道德、総合的な学習の時間等との連携方法、活動内容の工夫、ファシリテーターとしての教員のあり方等についても考察・研究する。学校現場の参与観察の機会も設け、実践的な学びとし、理論と実践の往還を行う。	隔年
		社会科教育概説	小学校社会科前史を含む社会認識の育成を目的とする教育実践史、小学校学習指導要領と関係、主要な授業実践における実践の意図や構成等を、史・資料や映像をもとに理解し、受講者が主体的に単元・授業開発を目指し、さらに、開発を目指す授業が歴史的、教育行政的、研究的に、どのような意義や課題を持つものであるかを確認する。	隔年
		社会科教育事例研究 I	小学校社会科の実践事例を取り上げ、授業観察を通して社会科授業の特色と意義、課題を確認し、授業記録、授業分析を通して、学習評価・授業評価の在り方を理解できるようにする。受講者は、発達段階や科目特性に対応した内外の特色ある授業を講読・視聴・観察したうえで、実際に授業記録を作成し、分析し、考察を加える手法を学び報告する。	隔年
		社会科教育特殊研究 I	中等教育段階の社会科系科目のカリキュラム・単元構成をふまえた授業開発のプロセスを実践的に習得し、これをふまえて受講者自身による授業テーマの設定、資料調査、教材化、授業構想、模擬授業、学習・授業評価などの実践的研究を指導する。	隔年
		体育教育概説	体育教育における運動文化、身体認識、コーチングなどの理論や実践を理解し、創造性と協同性を求められる今日の学校教育の課題に対応し得る新たな体育の授業構成について探究する。	隔年
		体育教育事例研究	「授業の研究」への取り組み方と体育授業における観察・記録・記述・分析・解釈の方法を理解し、実際の小学校体育授業（授業ビデオ）を通して、体育教育における今日的課題に対応し得る新たな教師の専門性について探究する。	隔年
		体育教育特殊研究	「授業の研究」への取り組み方と体育授業における観察・記録・記述・分析・解釈の方法を理解し、実際の中学校の体育授業（授業ビデオ）を通して、体育教育における今日的課題に対応し得る新たな教師の専門性について探究する。	隔年
		理科と環境概説	最新の科学教育について、その目標及び内容をカリキュラム構造としてとらえ、その基礎的な構造と事例について講述を行う。具体的には、「エネルギー」、「粒子」、「生命」、「地球」という4つの系統性を視点とする。また、環境教育について、「循環型社会」と「共生社会」の2つの今日的な方向性から基礎的な構造と事例の理解を図り、科学教育と関係づけて環境教育を捉え、持続可能な社会の構築を行うことの意義と重要性について考察を行う。	隔年
		理科と環境事例研究	小学校理科の学習内容について、A「物質・エネルギー」、B「生命・地球」の各区分の内容について具体的に検討を行い、さらに環境教育の理論と方法との関係で講述を行う。理科における環境教育の重要性について、個々の内容に即して具体的な事例研究を通して考察を深める。	隔年
理科と環境特殊研究	理科教育の内容について、「エネルギー」、「粒子」、「生命」、「地球」の4つの視点から系統的に講述を行う。次に、エネルギー消費、資源循環、生命尊重、生態系、地球温暖化などの現代的な環境教育の基本概念と関連づけ、考察を行う。さらに、Future EarthなどのポストESDの最新の国際的動向も踏まえつつ発展的に考察を深め、理科と環境教育の理解の充実を図る。	隔年		

(注)

- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校は収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。

授 業 科 目 の 概 要			
(人文科学研究科 教育学専攻博士後期課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
必修科目	学校教育事例研究Ⅱ	学校の実践的課題を実践的かつ理論的に研究する多様なアプローチを学び、学生の研究関心にもとづいていくつかの焦点化した主題を設定し、学校現場の教師との協同研究、授業実践のアクション・リサーチ、カリキュラム開発のアクション・リサーチ、校内研修と学校経営のフィールドワークによって、指導的教師を育てる実践的指導力の形成をめざす。担当教員全員が毎回集団指導を行う。	
	博士論文指導	<p>(概要) 博士論文の執筆と学会誌論文の執筆を促進し、計画的に博士論文の執筆作業が進行するよう、個別指導と集団指導の双方を行う。併せて、研究における不正防止の指導、並びに研究者倫理の指導も行う。博士課程を通じて4単位(各年2単位)を必修とするが、6単位の修得が望ましい。</p> <p>(①佐藤学) カリキュラム研究、授業研究を研究課題とし、授業研究分野について専門性の高い指導を行う。</p> <p>(②齋藤利彦) 日本教育史・中等教育史を主な研究対象としており、学校現場における教育活動の実態史に関する高度な研究指導を行う。</p> <p>(③山崎準二) 教師としての発達と力量形成に関する研究を行っており、教師教育分野における発展的な研究指導を行う。</p> <p>(④嶋田由美) 唱歌ならびに音楽教育の実態の解明を中心として研究を推進しており、芸術教育分野における専門性の高い指導を行う。</p> <p>(⑤岩崎淳) 国語教育を専門とし、言語教育分野における高度な研究指導を行う。</p> <p>(⑥長沼豊) 特別活動、ボランティア学習等を中心に研究を進めており、教科外教育に関する発展的な研究指導を行う。</p>	
選択必修科目	教育史事例研究Ⅱ	教員としての高度な専門教養として、教育史事例研究Ⅰをさらに発展させ、日本の戦前から戦後に至る教育史に関わる事象をとりあげ、歴史の流れに即して教育の現代的課題と結びつけて理解できるようになることが目標である。必要に応じて、近代以前の教育形態および欧米の教育史も考察の対象とする。そのために、教育史に関する重要な史料や文献は当然のこととして、特に実際の小学校現場の史料を調査・閲覧し分析の対象として、それらを読み解き、また先行研究の分析や批判も行っていく。演習の後半では、参加者の問題意識を踏まえ、個別課題を設定して検討と指導を進めていく。	隔年
	教育基礎学コース	公教育制度の成立と展開・教育政策・教育思想・教育内容と方法・教育実践の展開等を、歴史的視野から考究し、特に中等諸学校の学校沿革史をとりあげ、教育史の事例に則して、教育の現代的課題と結びつけて理解できるようになることが目標である。そのために、制度史や政策史に関する重要な史料は当然のこととして、教育史特殊研究Ⅰを発展させ、フィールド・ワークの意味を持つ実際の中等教育諸学校(旧制中学校、高等女学校、実業学校)の学校現場の史料、すなわち教務日誌、生徒懲戒簿、教案、教材、教具等の学校保存の内部史料や、生徒懲戒始末書、退学願届、校友会雑誌等の生徒・教員の意識・行動を反映する史料等も調査・収集し分析を行っていく。演習の後半では、参加者の問題意識を踏まえ、個別課題を設定して検討と指導を進めていく。	隔年

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
選択必修科目	教育基礎学コース	教師教育事例研究Ⅱ	ライフコース・アプローチを踏まえて学校種・年齢・性別等の異なる、主に初等教員の事例を用いながら、教師のライフコースを事例的に分析・考察し、そのことを通して教師の発達と力量形成を支え促す諸要因について析出し、今後の発達と力量形成を支え促す機能・システムの在り方について構想し、相互に検討し合う。	隔年
		教師教育特殊研究Ⅱ	教師教育をめぐる今日的な課題の一つである、教育専門職としての教師が、その実践経験の中から自己形成してきた力量の特質について考察し共有化しつつ、それを主に中等教員の事例を用いながら、ライフコース・アプローチに基づいて解明していくことを目指すとともに、その共有化・育成についての諸方策・諸政策について構想する。	隔年
	教育実践学コース	授業研究事例研究Ⅱ	授業研究におけるフィールドワークとアクションリサーチのそれぞれの特徴を認識し、それぞれのアプローチにおける観察と記録と分析の手法を実践的に学習する。授業研究の実践的研究は、授業改善、学びの研究、カリキュラム開発、教師の専門性の開発、学校改革など、研究目的によって概念も方法も活用の仕方も異にする。それぞれの方法を事例研究によって習得するのが本演習の課題である。	隔年
		授業研究特殊研究Ⅱ	授業研究の諸領域に関する学術研究の国際水準のレビューを行い、各院生の研究テーマと研究方法を洗練させ、最先端の研究への導入を行う。授業研究における観察と記述、分析と批評、概念化とその方法など、研究方法の専門的知見を学習するとともに、学際的アプローチによる研究の妥当性と信頼性について自己検証できる能力を形成する。	隔年
		芸術教育事例研究	本科目では音楽を中心としながら近接する諸芸術の教育についての国内外の研究動向や歴史への認識を深め、芸術教育という視点から学校における表現系の教育の現状と課題を分析する。同時に様々な発信の技法を芸術教育に活かす教育方法について実践的に考察し、理論と実践の往還の上に芸術教育のあり方についての各自の考えを確立する。授業は講義と、グループによる発表や討議を交えて行う。	隔年
		芸術教育特殊研究	本科目はまず各自の研究課題を明確にするために芸術教育に関する先鋭的な研究の検討から開始する。次に音楽、および総合的な芸術である伝統芸能（狂言・文楽）を中心としながら学外での芸術普及活動を学校教育に採り入れる方法を実践事例の検討を通して探求する。さらに学校や地域の実態に即した芸術教育プログラム案の提案、実践および省察を通して、学校においてファシリテーターとして芸術教育を推進できる高度な資質を高める。授業は講義と、グループによる発表や討議を交えて行う。	隔年
		言語教育事例研究	小学校の国語科を中心に、現在の教室で試みられている多様な教育実践に広く目配りをする。関連諸科学の研究成果や諸外国の動向なども取り入れつつ、国語教育の現代的課題について考察する。言語活動の研究を通して、学習者の国語の力を育成するための方策を探る。また、学習指導の研究を通して、受講者自身の指導者としての力量を向上させる。道徳教育と国語教育の在り方についても考察する。	隔年
		言語教育特殊研究	中学校・高等学校の国語の授業を中心に、多様な教育実践について学ぶ。関連諸科学の成果や諸外国の動向なども取り入れつつ、国語教育の現代的課題について考察する。言語活動の研究を通して、学習者の言葉の力を向上させるための方策を探る。また、学習指導の研究を通して、受講者自身の指導者としての力量を向上させる。	隔年

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
選択必修科目	教育創造コース	特別活動事例研究Ⅱ	本授業科目は、院生の研究テーマに応じて、小学校における教科外教育、主に特別活動におけるボランティア学習についての考察を行う。ボランティア学習に関する理念的考察および事例分析等を通して、特別活動の各内容におけるボランティア学習の指導のあり方を探究する。レクリエーションやグループワーク等についての実践的理解も深める。全体として教育方法やファシリテーションのあり方を基軸に据えることで、院生の研究者・教員としての力量形成をも図る。学校現場における参与観察および実習の機会も設け実践的な学びとし、理論と実践の往還を行う。また、大学教員を目指す院生のために特別活動に関する授業法について実践的に学ぶ。	隔年
		特別活動特殊研究Ⅱ	本授業科目は、院生の研究テーマに応じて、中学校、高等学校における教科外教育、特に特別活動における市民性教育についての考察を行う。市民性教育の特質、市民性を育むためのカリキュラムのあり方、学習内容の工夫、ファシリテーターとしての教員のあり方、英国の市民性教育の内容と方法について、市民性教育の理念的考察についてなどがテーマとなる。海外の事例研究のほか、日本の教育実践との比較や指導のあり方についての多角的な分析および考察を行う。学校現場における参与観察および実習の機会も設け実践的な学びとし、理論と実践の往還を行う。また、大学教員を目指す院生のために特別活動に関する授業法についても実践的に学ぶ。	隔年
		社会科教育事例研究Ⅱ	「社会認識形成」をふまえた「市民的資質育成」のための社会科授業はどのように設計すればよいか、「シティズンシップ教育」に焦点化して考究する。そのために、世界で最初にシティズンシップを中等学校における必修教科とした英国（イングランド）を比較の対象として、国内外のシティズンシップ教育に関する政府文書、カリキュラムや教材、テキスト、授業記録等を、受講生の報告と討論を通して分析・検討する。	隔年
		社会科教育特殊研究Ⅱ	教育科学としての社会科教育とは何か、何を対象にどのような方法論を用いて研究することなのかを、第二次世界大戦後の我が国における社会科教育の内容・方法論をめぐる論争史をふまえながら、社会認識形成論と市民的資質育成論の二つに分けて考究する。特に、前者においては「理解」「問題解決」「説明」を、後者においては「意思決定」「合意形成」「社会参加」を分析のための鍵概念として、考察を深める。	隔年

(注)

- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校に収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。